

直木賞作家・重松清の  
魂を揺さぶる衝撃作、ついに映画化!

誰か一緒に生きて下され

# 疾走

dead run

脚本・監督:SABU

手越祐也 韓英恵

中谷美紀 / 大杉漣 寺島進 加瀬亮 / 豊川悦司

菅田俊 高橋ひとみ 柄本佑 / 田山涼成 / 鈴木一真 矢沢心 / 平泉成

原作:重松清『疾走 上・下』(角川文庫刊)

音楽:S.E.N.S.(メイン・テーマ「Rain」)

第1回ニュー・モントリオール国際映画祭コンペティション部門正式招待作品

プロデューサー:三本裕明 共同プロデューサー:大西洋志 長松谷太郎  
撮影:中瀬正夫(J.S.C.) 照明:丸山文雄 美術:金勝浩一 録音:岩倉雅之 装飾:鈴木高正 編集:大島ともよ キャスティング:狩野直人  
製作:IMJフィルムパートナーズ/角川映画/ジェイ・ストーム/S・D・P/IMJエンタテインメント 制作プロダクション:IMJエンタテインメント  
配給:角川映画/エンジェル・シネマ 配給協力:角川ヘラルド・ビジュアル ©2005「疾走」製作委員会



どうして、にんげんは死ぬの？

# 疾走

“沖”と“浜”という2つの地域が存在する、とある干拓地。シュウジは、両親が自慢する出来のいい兄シュウイチのことが大好きな、“浜”に住む心優しい少年だった。そんな、シュウジを取り囲むように起こるさまざまな出来事と出会う人々——“沖”に越してきた“鬼ケン”と呼ばれるヤクザものとの奇妙な出会いと突然の死。“鬼ケン”の情婦で、シュウジに性の目覚めを抱かせる大人のオンナ、アカネ。幼い頃、両親を自殺で失ったことで、世の中を斜に見ることしかできない孤独な少女エリとの淡い恋。自らの不貞から弟を殺人者にしてしまったという重荷を背負いながら、シュウジとエリを導く“沖”に出来た教会の神父。やがて、大好きな兄シュウイチが挫折ののちに起こした放火事件から、家族は離散し、シュウジの運命の歯車が狂っていく…。そして、未だかつてない衝撃と感動のラストへ向かいシュウジは“疾走”する。

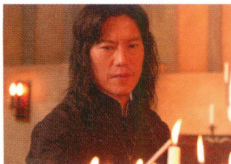
想像を絶する孤独のなか、ただ“ひととつながりたい”——それだけを胸に絶望の淵を懸命に駆け抜けた少年の慟哭と「生」の軌跡。この物語は、決して甘くも美しくもない少年期を真正面から捉え、大人がいつの間にか忘れてしまった少年の胸の痛みと生き様を、少年のココロを投影するかのようなノスタルジックな背景と圧倒的な美しい映像の中、親でも教師でもない、いわば「少年を見つめる神の目」から描かれる。

## 直木賞作家・重松清×俊英・SABU監督

誰にでも、どこにでも起こり得る切実な問題を、圧倒的筆力で力強く伝える直木賞作家・重松清の同名原作をもとに、デビュー作から世界各地の映画祭で高い評価を得、いま最も新作が待ち望まれる映像作家SABU——同じ時代を生きてきた2人の作家のコラボレーションにより、新たな問題作が生まれた。SABU監督にとって、この作品は、初めての原作映画化であり、新たな境地に挑む作品となった。さらに音楽は、海外でも高い評価を得ているS.E.N.S.(センス)が担当。主人公の心情を紡ぎ出すようなメロディーが心に沁みわたる。

## 手越祐也——日本映画に新たなスターが誕生した

主人公シュウジに扮するのは、ティーンを中心に絶大な人気を誇るNEWSの手越祐也。映画デビューがいきなり主演作で、体当たりとも言える自然で新鮮な演技は、まさに新世代を担うニュースター誕生と言えらる。運命に弄ばれる少女・エリ役で共演するのは、『誰も知らない』での強烈な存在感が記憶に新しい、韓英恵。さらに中谷美紀、豊川悦司、大杉漣、寺島進、高橋ひとみ、加瀬亮など近年の日本映画を代表する実力俳優の豪華競演が実現した。



公式ホームページ: [kadokawa-pictures.com/shissou/](http://kadokawa-pictures.com/shissou/) オリジナル・サウンドトラック: S.E.N.S. (BMG JAPAN)

2005年 / カラー / ビスタ / ドルビーSR / 125分

12月17日(土) 心揺さぶるロードショー!

前売券絶賛発売中! 一般券¥1,300(当日一般¥1,800のところ)  
ペア券¥2,600(お二人で・劇場窓口のみ)

※劇場窓口でお求めの方に限り特製ポストカードセットプレゼント!  
(数に限りがございますのでお早めに)

銀座4丁目交差点和光ウラ通り  
**シネスイッチ銀座**  
03 (3561) 0707  
<http://www.cineswitch.com>

11:00 1:45 4:30 7:15

池袋駅東口・サンシャイン60階通り  
**池袋シネマサンシャイン**  
03 (3982) 6101

※時間は直接劇場までお問合せ下さい  
※全席指定